

会議名	匠瑛市版生涯活躍のまち形成事業 平成 29 年度 第 4 回 飯倉駅前地区まちづくり協議会 議事録	
日 時	平成 29 年 12 月 16 日(土) 14 時 30 分～16 時	
出席者	<p>■協議会委員</p> <p>井上峰夫 社会福祉法人九十九里ホーム理事長 村井康祐 匠瑛市豊栄地区シニアクラブ会長 代理出席 飯島長男</p> <p>鶴野航三 匠瑛市商工会長 鈴木弘 匠瑛市シルバー人材センター会長 栗山恭典 千葉興業銀行法人戦略部長代理 代理出席 柴田実 千葉興業銀行八日市場支店長</p> <p>守正英 匠瑛市介護事業者連絡会長 加瀬功一 匠瑛市ボランティア連絡協議会長 増田利夫 豊栄地区社会福祉協議会長 片岡正勝 豊栄地区区長会長 松本理 前豊栄地区区長会長 大久保彰彦 八日市場青年会議所社会開発委員会担当副理事長</p> <p>■事務局</p> <p>社会福祉法人九十九里ホーム 江波戸美代 専務理事 鈴木敦子 事務長 株式会社ローカルファースト研究所 関幸子、林雅孝</p> <p>■オブザーバー</p> <p>大木寛幸 匠瑛市 企画課長 林雅之 匠瑛市 企画課まちづくり戦略室長</p>	
議事録	事務局	1 開会 開会のあいさつを行った。
	井上会長	議事 1 匠瑛市版生涯活躍のまち事業計画書(案)(平成 29 年 12 月 16 日版) 主な変更点について 匠瑛市版生涯活躍のまち事業計画書(案)の主な変更点について

	事務局	<p>説明をお願いします。</p> <p>資料 1 に基づいて説明。(要点のみ記載)。</p> <p>■第 3 章 匝瑳市の現状と課題</p> <p>2 分野別現状</p> <p>について下記追加</p> <p>(4) 観光</p> <p>(5) 文化コミュニティ施設</p> <p>(6) 公園スポーツ施設</p> <p>(7) 教育施設</p> <p>(8) 公共交通</p> <p>(9) 地域コミュニティ</p> <p>■第 4 章 匝瑳市版生涯活躍のまちの可能性</p> <p>2 東京都心の高齢者政策と状況について</p> <p>について、自治体ヒアリングの内容を追加</p> <p>■第 6 章 具体的事業</p> <p>3 導入機能</p> <p>について、下記を追記</p> <p>(3) 地域連携の推進</p> <p>①情報を発信する取組</p> <p>②地域住民に向けた取組</p> <p>③地域間連携の取組</p>
	井上会長	<p>ここまでで質問・意見があれば。 特になければ先へ進めます。</p>
	井上会長	<p>議事 2 飯倉駅前地区まちづくり協議会 ディスカッション・ペーパーについて</p> <p>事務局より説明願います。</p>
	事務局	<p>資料 2 に基づいて説明 (要点のみ記載)。</p> <p>1 地域住民に向けた取り組み</p> <p>①住民の意識向上</p> <p>2 参考事例</p> <p>①三鷹市</p>

		<p>旧住民と新住民の融合のための戦略としてコミュニティ行政を推進→まちづくりの制度として、常に市民の意識改革を促す手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ行政の展開 ・コミュニティセンター建設（昭和 48 年～平成 17 年） 住区毎に 1 センター建設整備=7 か所 ・ステップ 1 住区のコミュニティカルテの作成（地域診断） ・ステップ 2 住区のまちづくりプラン作成（地域計画） ・ステップ 3 コミュニティセンター建設計画作成→建設 ・ステップ 4 住民協議会設立 運営・活動内容の決定 <p>②富山市</p> <p>富山市の中心市街地活性化の推進→市長のリーダーシップ型 時間をかけて市長の想いを語り納得してもらう手法</p> <p>3 ご協議いただきたい項目</p> <p>①地域住民のみなさんは、新たな住民にどのように接すればよいでしょうか。</p> <p>②長く農業が中心であり、血縁や昔ながらの地縁が強い匝瑳市の住民に、新住民を快く受け入れてもらうためにはどのような意識改革を進めたらよいでしょうか。</p>
	A 委員	<p>匝瑳市は身近に旭市の干潟地区のような事例がある。干潟地区は工場の跡地が工業団地になり人が集まり、以前からの地域住民と新たな住民とのトラブルが起こって、それに対応してきた経緯がある。現在はお祭りなどで関わりがあり落ち着いている。それが、匝瑳市と旭市の境にあった。旧住民と新住民の融合についての事例は身近にある。</p>
	井上会長	<p>匝瑳市も新住民にどのように地域になじんでもらうか。これはまさに、飯倉台のこと。匝瑳市内で他にも人口が増えているところがある。新住民をどのような気持ちで受け入れ、地域にどのようになじんでもらうか考えたい。</p>
	A 委員	<p>移住者は飛び込みで来ている人だから、新しく来た人が積極的にすでに居る人の中にどのように出ていくか先に考えないとうま</p>

		<p>くいかない。周りの人を呼び込むスタイルではなく、移住者が出ていくスタイルが必要だと考えている。</p>
井上会長		<p>我々が建設しているこども園や高齢者住宅や特養の利用で来る人は、我々の対応でできる。これは1つのきっかけで、これらに関連して周辺にもう少し移り住んでもらえないかという話をしている。高齢者住宅や介護施設の周辺が賑やかになれば、例えば飯倉台の空き家などに入ってもらってはどうかと考えている。また、そこで働く人たちも近所に入れなないかということで、地域全体を活性化していこうと取り組んでいる。</p>
A 委員		<p>(介護事業の)同業者は敏感になっている。特別養護老人ホームの申請内容をどのようにしたのかなど情報をオープンにして欲しい。</p>
井上会長		<p>情報を全て抱え込むことはしない。事業者協議会とも連携して色々なサービスが入ってくるようにする。こども園も最初は定員も多かったが現在は縮めている。今まで行っている事業体に迷惑をかけられない。</p>
B 委員		<p>飯倉台の開発時期に、人がどんどん増えていった。核家族で自宅を継ぐのかという話になると、子どもは出て行って帰ってくる予定はない。そうすると、1代で終わってしまう。良い働き口が無いことや、世代を超えて住みたいという魅力が足りないからだと思う。</p> <p>昨年来、こども園と特別養護老人ホームと他のエリアをどうするかという議論をしてきた。本事業の開発に当たっては、基本 CCRC 構想に則り行う。都市から人を呼ばないと運営もうまくいかないだろうが、高齢者だけに特化しても成り立たないので、移住として新たな世帯にきてもらいたい。そこで、新たな住民が入ってきたときに、旧住民とどう接していくのかを議論する場が必要だと思っている。全体で考えると、匝瑳市としては住民を増やしたいため、今回の事業を中心として活用し、高齢者だけでなく周辺の地域に都会から広い世代の移住を受ける活動の事業にしたいのか。</p>
井上会長		<p>飯倉駅前の事業計画は1つの起爆剤である。九十九里ホームが</p>

		<p>施設をつくるということではなく、地域の人たちにこの事業を利用して、飯倉駅前でも色々なことをしたいと考える人が出てきてくれることを望んでいる。何もしないと変わらない。施設が増えるだけでなく、最終目的は人口を増やすこと。匝瑳市は人口減のため、何らかの形で減少のスピードをゆっくりにしないと、消滅自治体になってしまうのではないかと。少しでも地域を賑やかにしていく必要がある。そのために、使えるものは何でも使ってやっていきたい。</p>
	C 委員	<p>今年度の(豊栄)小学校入学は、27名。そのうち20名は飯倉台。匝瑳市は今、飯倉台に人口が張り付いている。1年間に5軒くらい建っている。そのおかげで、豊栄も匝瑳市内の中では人口が増えている。新しい人が多い飯倉台と豊栄はうまくやっていると思う。</p>
	B 委員	<p>飯倉台は新しく来た人が多いエリアで、近隣の人たちとの接し方は飯倉台だけの自治会で完結させることもできるが、エリア全体を考えると豊栄と連携しなくてはならない。それがうまくいっている。地元は習慣や慣例を大事に守ろうとする。だから、新しい人が入っても、地元の考えに従ってもらわなくてはいけないという話になる。しかし、付き合いをしていく中で、お互いの考え方が浸透していく。これが時代の変化なのではないか。新しい人が入ってきたときに歓迎し、意識を変えていくことを地元に住んでいる人にも行って欲しい。そうすることで、会話が生まれ匝瑳市は、良いまちだと思うと、周りにも広がっていくと思う。</p>
	C 委員	<p>飯倉台は山だったところに400軒から500軒の人たちが入ってきた身近な事例。魅力があるから、入ってきている。現地・現物・現状で地域の良さを理解してほしい。九十九里ホームに全て任せるのではなく、住んでいる人たち一人一人が魅力ある人間になり、社会になることで人が集まる。九十九里ホームの事業の不安はないが、こういった動きをさらに広げて、魅力ある地域にするために考えることはまだまだある。</p>
	D 委員	<p>飯倉台は人口が増え、新しい考え方が入ってきた。飯倉台の人口が増えるかわりに周囲の地域住民が減っていき、飯倉台の新しい</p>

		<p>住民の意見が通るようになっていった。開発から 30 年過ぎた現在、飯倉台を見守りで回っていると 65 歳以上の高齢者がとても増えている。現役の時は仕事をしていれば、地元で馴染まなくても生活ができていた。しかし、リタイアするとこれまで近隣と付き合いがない人は話ができず引きこもってしまう。飯倉台に住んでいる人たちは比較的金銭的には余裕がある地域なので、お茶を飲む場や話す場があれば付き合いが生まれ、良くなっていくと思う。飯倉台の住民はそういった事業を待ち望んでいると思う。</p>
E 委員		<p>総合計画があり、この事業の計画がなされているという関係があるように、行政との関係性、高齢化社会、匝瑳市の人口減少の時代を考え、事業計画が成立するためには、外からいかに人を呼び込むかという活動が 1 番大事である。施設が充実していても利用する人がいなければ経営が行き詰まる。総合計画を含め、匝瑳市全体のみなさんが利用しなければならないような事業が 1 番大事になると感じる。</p>
井上会長		<p>拠点になるものがあれば住む人が増えると思う。働き口などについてはどうか。</p>
F 委員		<p>成田市の新しい住宅地について、従来の住民が新住民とのコミュニケーションがとれないということで、お祭りをはじめた。お祭りを通してかかわりを持ち、まとまったところがある。飯倉台の中ではそこまでの対立や問題は無いようなので、あまりこうやりましょう、ああやりましょう、と言わなくてもよいと思う。</p> <p>また、商工会で新たに創業塾を実施したところ十数人が集まり勉強している。そのうちの 1 人は匝瑳市で起業するという事になった。</p>
井上会長		<p>どのような業種の起業が多いのか。</p>
F 委員		<p>色々ある。意欲はあるが残念ながらこういった動きはまちの真ん中では店舗やオフィスを貸してくれるところが無く起こりにくいようだ。</p>
G 委員		<p>移住者が少ないときは協力的だったが、移住者が増えてくると地</p>

	<p>区独自の体制で行うようになり、周りの人は応援するという感じになったので意見を言いづらくなった。移住者の意見を聞いて取り組んでいきたいが、近所の付き合いは薄くなっている。健康な人は家に引きこもらず外に出て、生涯現役のような感覚でいてほしい。</p>
井上会長	<p>元気な人は外に出て、何らかの仕事ができるようにしたい。シルバーの仕事はどうか。</p>
G 委員	<p>会員数は 250~270 人だが、だんだん落ちてきている。会員に入る人が減ってきて、仕事を頼むこともできなくなっている。</p>
井上会長	<p>仕事を頼む方はどうか。</p>
G 委員	<p>頼む方も高齢化が進んで減っている。若い人はやる人が少ない。頼まれる仕事もあるが職種によってはやる人が少なくなっている。</p>
匝瑳市	<p>地域住民と新住民との関係は心配していない。人口が流入している地域の事例に習った接し方にすれば精度が高くなる。スポットで色々な地域に入ってくる人は地域と接したい人たちで、コミュニケーションをあまり求めない人は新たに開発した地域に入り、その人たちでルールを決めていくため心配する必要はないと思う。人口流出と考えると、将来就く仕事を学ぶ学校や専門学校がない時点で、流出は止められない。実際に進学や就職のタイミングで出ていく現状。新たに人を呼び込むより、仕事や学ぶ場を作ることで流出人口を止める方が効果的な場合もある。</p>
H 委員	<p>新たに入ってくる人は不安を持っていると思うが、問題にはならず地域住民とうまくやっているように感じる。どうやって接していくのが大事。どんどん発信していければよい。流出人口を止めることは匝瑳市ではハードルが高いが努力し、女性をどう残すかが大きな課題だと思う。九十九里ホームのように女性の職員が多い事業所もあり、可能性はある地域だと思っている。地域交流拠点が事業地の中にあるが、飯倉に来ることで人とのかかわりが増え地域交流ができる場所になればよいと思う。お祭りでの交流</p>

		は、外から来た人も誰でも担げることがをどんどん発信していくと、お祭りを楽しみに人が来て人口が増えると思う。
	匝瑳市	移住となると、生涯活躍のまちよりも大きなテーマになる。匝瑳市へ来てくれる人のハードルを下げたいという考えで行っている。匝瑳市を選んでくれる環境を作っていきたい。その核になるのが、この事業になる。
	井上会長	交通網では成田へ行く手段について出ていた。成田空港は雇用の要である。
	井上会長	議事3 平成30年1月20日 意見交換会について 地域共生社会とまちづくりのかかわりについての講演会。その後、協議会を開催する。
	井上会長	3 その他 資料3、4として議事録を提示している。相違があれば事務局にお伝え下さい。 次回は、1月20日。意見交換会が13時から、協議会が15時から。これからも引き続き協力お願いします。何かあれば、九十九里ホームの法人本部に連絡下さい。
	井上会長	4 閉会 閉会の挨拶を行った。